

ONE BRAND

◆ **ONE LOVE** INTERVIEW

神田うの

vol. **25**

創刊
4周年

◆ 特集 **2010年の愛犬文化を大予測!**

犬の雑誌

◆ 創刊4周年記念企画

「殺処分減少をめざして」



犬の雑誌誌

2010年の
愛犬文化を
大予測!

NEW YEAR SPECIAL

飼い主さんにとっては身近な「犬の雑誌」たち。どれも似たようなモノ? いいえ、それぞれに個性たっぷり、特徴豊かなのです。2010年スタート...というコトで、今年の愛犬文化予測も編集長に突撃レポート。犬のマガジンが犬の雑誌を特集?! カタいこと言わず、読んでみて!

日本を代表する老舗総合雑誌

『愛犬の友』

「ワンちゃん」という言葉を生み、「犬は家族」という概念を最初に打ち出した『愛犬の友』。石井編集長に、これからの愛犬文化の行方を占ってもらった!

2010年大予測
良質な愛犬文化の
幕が開きます!



『愛犬の友』では、昨年11月号から「Life Support」シリーズをスタートさせました。子犬の探し方、幼犬の育て方、シニア犬との暮らし方、多頭飼いのコツなどなど、犬の成育段階と飼い主のライフスタイルごとにテーマを分け、それぞれに役立つ内容の記事を掲載しています。

じつは、これ、最近の愛犬文化の動向を分析した結果、生まれた企画だったりするんですねー。

●『愛犬の友』で見る愛犬文化の流れ



1970



1960



1955年～

1952年創刊時

戦後間もないことから、元軍用犬だったシェパード犬や日本犬としての秋田犬が注目の的

経済成長とともに純血種への憧れが高じ、日本スピッツが流行。アニメ『わんわん物語』のアメリカン・コッカースパニエル、TV『名犬ラッシー』のコーリーも人気に



1967年～

マルチーズ、ボメラニアン、ヨークシャーテリアが小型御三家として人気を博す。日本における室内犬文化のはじまりとなった



皇太子陛下(当時)と御愛犬、秋田犬のタマ号



石井従道編集長

いしよりみち ●1951年千葉県生まれ。國學院大學卒業後、74年に誠文堂新光社に入社。以来、『愛犬の友』の編集に携わり、96年編集長に。子どものころからコリーが大好き。趣味は野球。

創刊58周年の『愛犬の友』

- 創刊:1952年
 - 発行:誠文堂新光社
 - 刊行:月刊
 - コンセプト:「ワンちゃんといっしょの生活を考えよう」
 - 内容:ドッグショー、医療、文化史などの専門分野から、一般の愛犬家のための飼育ノウハウまでを総合的にカバー
 - 読者層:ショーや繁殖を趣味にしている人、トリマーなどの犬関連の職業をめざしている学生、一般の愛犬家など
 - 発行部数:7万5,000部
- <http://www.aikenotomo.com/>

飼うかということを考えてとき、現在はさまざま方法で簡単に見つけられませんが、本来家族の一員として飼う場合、衝動買いではなくじっくりと自分の家の環境や家族構成などと照らし合わせた上で、犬種の特徴などを考え合わせて飼うべきです。そのためにはブリーダーやペットショップに足繁く通って、納得して求めるのが正しい求め方ではないでしょうか。そうすれば、いらなくなったから捨てるという行為はなくなるはず。

もう一つ注目しているのは、シニア犬を前向きに飼う人が増えていることです。とても喜ばしい傾向として捉えています。昔は、年老いて弱った犬は安楽死させるケースが目立ちましたが、いまは最後まで真剣に面倒を見る人が多い。しかも、彼らのほとんどは10年ほど前の空前の犬ブームのときに気軽に飼いはじめた人なわけですが、そうしたシニア犬に対する行動から、本物の愛犬家精神を身につけていることがわかってきている。私たちは、「日本の愛犬文化も捨てたもんじゃいなあと感慨を新たにしており、これから、それを後押ししていただけるような情報を充実させたいなと思っています」。

さて、2010年の日本の犬を取り巻く状況ですが、不景気の影響もあってマーケティング的には低調に推移するでしょうね。ただし、犬のことをよく考えた愛犬家、ブリーダーさんが増える兆しが垣間見えており、ある意味「良質な愛犬文化の幕開け」の年となりそうな予感もいっぱい。総合的には、きつといい年になるでしょう!



2010

2010年

いい愛犬家が増え、いいブリーダーが増えつつあることから、「良質な愛犬文化の幕開け」が予感される

2000

2000年～

空前の犬ブームでダックスフント、チワワ、プードルが新小型御三家として浮上。毛色が多いダックスは価値観が多様化した日本人に受け、03年に17万頭の登録を記録



1990



1995年～

フィラリアを予防する薬が普及し、大型犬が飼いやすい状況となった

1985年～

日本でドッグフードが一般的になったことで食事の与え方が楽になり、以後、犬の飼いが大きく変化していった

1980年代後半～

映画やマンガの影響で突然ハスキーが人気犬種に。しかし、その後一気にハスキーの捨て犬が増えるという悲しい現象も

1980

1980年～

シェットランドシープドッグが人気犬種に。裕福になった日本人は、かつての憧れであったコリーの姿をそこに投影した模様



Wan

歴史、健康、ケア、ファッションなど、毎号1犬種に関するあらゆる角度からの情報を掲載している『Wanワン』。川田編集長が、2010年の注目犬種をピックアップ!

犬の健康情報に強い『Wan』

- 創刊:1984年
- 発行:ペットライフ社
- 発売:緑書房
- 刊行:隔月刊
- コンセプト:「犬と暮らす毎日」
- 編集内容:1号1犬種に絞った編集を展開。動物医療分野に強い出版社の発行のため健康情報が充実
- 読者層:犬を飼うことに慣れた中級者を中心に初心者までをカバー。主に30~40代の主婦層が購買し、家族で愛読
- 発行部数:6万5,000部

<http://www.pet-honpo.com/magazine/wan/>

『Wan』が1号1犬種の編集を行うようになったのは、昨年の7月号からのことです。世の中、「犬が好き」というよりは、「この犬種が好き」とこだわる人が増えてきており、それに沿った情報を提供する必要性を強く感じましたからです。

「こんなはずじゃなかった」なんて思うことが少なくなるはず。そうならば、一生幸せに飼い続けることができるだろうという予想が自然と立ってきますから。私たち『Wan』は、今年もそうしたことを踏まえつつ、より質のいい犬種情報を発信しつづけていく所存!どうか、ご愛読よろしくお願いたします。

ファイチャーしているのは流行の犬種だけというわけではありません。なるべく、飼い主さんの多くがこだわって飼っているような、興味深い犬種を選ぶようにしています。まあ、流行に乗って犬を飼う人は、その犬種の詳しい情報にあまり関心を示さない傾向にあるため、編集部としては当然のチョイスをしていると言えなくもありませんけど…。

いずれにせよ、今後も犬種にこだわって犬を飼う人が増えていくことは、ある程度予想されます。そして、それに合わせて「流行犬」というビッグウェーブに乗って頭数が増えるようなことは、以前と比べてかなり少なくなっていく気がしています。

個人的には、こうした潮流はある

意味、日本の愛犬文化のためにはいい方向に働くのではないかと考えています。だって、みなさんがその犬の習性などをよ

2010年大予測
犬種にこだわって
飼う人が
増えます!



川田央恵編集長

かわだひさえ●1976年長崎県生まれ。早稲田大学卒業。美術系出版社を経た後、2006年から緑書房でトリマー向け専門誌『ハッピー・ネトリマー』の編集に携わり、07年からは『Wan』の編集長も兼任。趣味は映画と読書。



●『Wan』オススメ犬種

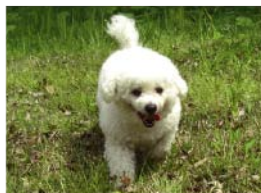
パピヨン

かわいく、賢く、運動神経もいいので、初心者にもオススメ。長毛ながらお手入れがしやすい



ビション・フリーゼ

かわいさ一級。性格はいたって陽気。真っ白でフワフワのコートが特徴。目の肥えた愛犬家にオススメ



ノーフォーク・テリア

初心者には扱いが難しいとされることが多く、「飼い甲斐」が抜群のテリア。でも、ノーフォークなら比較的飼いやすい



2010年大予測
三つの需要拡大が
見えています!



大野理美編集長

おのりのみ ●1966年東京都生まれ。
日本女子大学卒業後に芸文社に入社。
情報誌、書籍の編集を経て、98年『愛犬チャンプ』編集部に。
2008年から編集長。現在、社員犬「タラスコ」に
癒しをもらいながら、日夜奮闘中。

ワンテーマを追求するスタイル

『愛犬チャンプ』

毎号、犬に関するワンテーマを設定し、それとことん追求するスタイルの『愛犬チャンプ』。
大野編集長が、2010年の三つの需要拡大予測を大公開!



●『スピード化時代における犬の需要拡大』
大不況とはいえ、時代のスピードに
疲れている人々を癒す存在として犬は
拡大を掲げたいと思います。

●『愛犬チャンプ』は、2008年の2月
号以来、主に犬の健康に関するテーマを
一つ取りあげ、それをあらゆる角度からつ
つき、かつとことん深掘りするという特
集を組んでいます。これは、犬が家族同様
に扱われている時代、かわいとか楽しい
だけじゃなく、愛犬との暮らしをより快
適なものとするための情報が必要と考え
たからこそこの編集スタイル。WEBやほ
かの雑誌とは一線を画す個性が打ちだせ
ていると思っています。

●『オンリーワングッズの需要の拡大』
さまざまなグッズやアイテムが市場に溢
れるなか、これからは「ウチの子仕様」
のオンリーワングッズが注目の的とな
るでしょう!

●『老犬との暮らしに関する情報の需要
拡大』
登録犬の6割近くが7歳以上と
いう現状、老犬と快適に暮らしてい
くための情報へのニーズが急激に高まる
でしょう!

犬の気持ちを見抜く・察する『愛犬チャンプ』

- 創刊: 1992年
 - 発行: 芸文社
 - 刊行: 隔月刊
 - コンセプト: 「健康で楽しい暮らしのための情報マガジン」
 - 内容: 毎号、専門家の監修の元、犬の健康などに
関する一つのテーマを深く掘り下げる編集
 - 読者層: アクティブで知識欲の高い愛犬家。
30~40代の主婦層が購買し、家族で愛読
 - 発行部数: 10万部
- <http://aiken-c.jp/>

●『愛犬チャンプ』オススメ「オンリーワン」アイテム



愛犬を立体的にかたどったケーキ
愛犬の姿を立体的に再現できる犬用ケーキは、
誕生日にオススメ。写真はLovinaのオーガニック
ケーキ (写真左)

トッピングごはん
ドッグフードにひと工夫のトッピングをすればオ
リジナルごはんのできあがり。写真は腸内トラブ
ルにいい「温めりんごのトッピング」(写真右上)

※参考: 『世界にひとつだけのうちの犬グッズが作れる
本』『トッピングごはん基礎BOOK』(芸文社)

←P38にプレゼント情報もあります!



←社員犬タラスコ

犬種別マガジンの潮流2010

いま、1犬種限定の雑誌が増えている。人気の秘密は？そして今後どうなる？



『コーギースタイル』

ウェルズからやってきたウェルッシュ・コーギーの不思議な魅力を紹介。辰巳出版／年2～3回刊。



『Shi-Ba【シーバ】』

柴犬をメインに日本犬との暮らしの楽しさや飼い方のノウハウなどを紹介。辰巳出版／隔月刊。



『RETRIEVER』

レトリバーと心豊かに暮らすためのライフスタイルマガジン。樫出版社／年4回発行。
<http://www.retriever-e.com/>



『PE·CHA【ペチャ】』

人気急上昇中の鼻ぺチャ犬だけを集めたニュータイプのドッグマガジン。辰巳出版／年2～3回刊。



『プードルスタイル』

飼い主さえも気づかないプードルの真の魅力を綿密な取材で解き明かす。辰巳出版／年2～3回刊。



『ダックススタイル』

日本で一番多く飼われているダックスの魅力をあらゆる角度から解明。辰巳出版／年2～3回刊。



『チワワスタイル』

流行の陰に隠れて見えなかったチワワの真の魅力を徹底的にあぶりだす。辰巳出版／年2～3回刊。

「犬に対する興味の細分化が犬種別マガジンの人気を支えています」
辰巳出版・井上祐彦編集長

辰巳出版の犬種別ムック・シリーズは、2001年の『Shi-Ba』が最初。そのころ僕自身が柴犬を飼いはじめていて、純粋に「柴犬のことがよくわかる雑誌がほしいな」と思ったのが創刊のきっかけでした。マーケティングは、まったく意識しませんでしたね(笑)。

『Shi-Ba』の好評を受け、その後、犬種を絞ったムックの創刊がつづいたわけですが、いずれもその犬種と暮らすことの「面白さ」をテーマに据えています。いまの世の中、「あれしちやいけな、これしちやいけな」とわりと窮屈で、愛犬家本来の楽しみが削がれている部分があったりする。最低限のマナーやモラルは必要ですが、せめてウチの雑誌のなかでは犬と愛犬家に自由を謳歌してもらいたいと考えているんです。

いま、なぜ犬種別のマガジンが読まれるのかというと、やはり犬に対する興味の細分化が急速に進んでいるからじゃないでしょうか。で、そういう人たちは、全ページが一つの犬種の情報で埋め尽くされていないと、雑誌に価値を見いださなくなっているみたいなんです。

たぶん、2010年もこの傾向はつづくと思います。ちなみに、いま僕らは、できれば「大型犬」にテーマを絞った雑誌をだしたいなあって考えているんですが、どうでしょう、編集部のパワー次第ですかね(苦笑)。

いとうえまさん◎1964年東京生まれ。駒澤大学卒業。某出版社で3年勤務後に辰巳出版に入社。2001年に『Shi-Ba』を創刊。その後、同社の犬関連の雑誌・書籍すべての編集長を務める。愛犬は柴犬の福太郎。
<http://www.tg-net.co.jp/nyujo/dog/>

「この子とずっと楽しく暮らしたい。そう思う人は犬種別マガジンに走ります」 『BUHI』・小西秀司編集長

こにしゅうじ●1969年神奈川県生まれ。
30歳まで出版社に勤務し、その後4年間アジアを放浪。
帰国後、2006年から『BUHI』編集長&アートディレクター。
時雨(しぐれ)という名のフレンチブルドッグが愛犬。
趣味は旅行。

人と犬との関係性を描く『BUHI』という雑誌

——そもそもフレンチブルドッグに絞ったマガジンをつくるのと思ったきっかけはなんだったんですか？

小西秀司編集長(以下小西) 最初に出版社のほうから鼻ペチャの犬の雑誌を作りたいという話があったんです。だけど、そのとき僕は、ぜったいにフレンチブルドッグに絞ったほうがいいと主張した。ちょうど僕自身がフレンチブルドッグを飼っていたし、時代の空気からそのほうが面白いものができるという気がしたんです。

——フレンチブルドッグに絞ったこともそうですが、つくりそのものがいわゆる

犬の雑誌とは趣が異なっていますね。

小西 はい。フレンチブルドッグを正しく飼うためのHOW TO情報を掲載するというよりは、「人と犬の間に流れる関係性」のようなものを描く編集を心がけているんです。たとえば、しつけの問題を扱うにしても、解決策だけを単純に掲載するのではなく、しつけにすごく悩んでいる人や成功例のインタビューにも誌面を割くようにしています。

今年は犬との暮らしを本当に楽しむ人が増え…

——創刊以来、フレンチブルドッグを取り巻く状況が大きく変化した印象はありますか？

小西 まず、世の中にフレンチブルドッグの頭数がすごく増えた。一昨年の登録頭数は8位。昔では考えられなかった数字です。あとは、飼い主のみならず、とにかく一所懸命に飼っているという印象が強くなってきましたね。ネットワークをつくってケア情報を交換したり、イベントを催して楽しんでいる。すごいなあって思いますよ。こうした傾向は、今後ますます加速していくんじゃないでしょうか。

——ところで、今年2010年、愛犬文化にどのような

ムーブメントが起きるとお考えでしょうか？

小西 僕はフレンチブルドッグを通してしか予見できませんが、きっと、本当の意味で犬との暮らしを楽しめる人が増えていくんじゃないかと見ています。いくら家族同然とはいえ、いままでは人と犬の暮らしにはまだまだズレのようなモノがあった。「犬がいるから○○できない」などの意識が邪魔して、心底犬との暮らしが楽しめていない人が多かったように思うんです。でも、これからは、そういう固定された意識がどんどんほぐれていくような気がしています。たとえば、ごく普通に「犬がいるから海岸に引越そう」とかという人、いっぱいいてくるんじゃないでしょうか。

——そうなる背景は？

小西 犬を終生大切にしようという覚悟をもつなど、愛犬家の意識が高まってきているというのもあるんですが、フレンチブルドッグに限って言えば、彼らがすごく人間っぽいついていうことも背景としてあるでしょうね。彼ら、ともに暮らすパートナーとして、ずっと楽しく暮らしたいという気持ちを感じて惹きつけてくれるところがあるんですよ(笑)。

——なるほど(笑)。……では、最後の質問です。いま、犬種別マガジンの人気が高まっていますが、今後この傾向はつづくのでしょうか？

小西 つづくでしょうね。なにしろ、犬それぞれの犬種の個性がちがいますま

す。同じ犬ということでは情報を括ってしまうにはムリがある。飼い主が強く「もっとかわいがりたい、もっといっしょにいたい」と思えばじめたら、必然的にその犬種に特化したものに走るのが自然でしょう。で、先ほどもいったように、いま、そういう飼い主が増えてきているという事実もあるわけですから。

フレンチブルドッグLOVE『BUHI』

- 創刊:2006年
- 発行:オークラ出版
- 刊行:季刊
- コンセプト:「人生でフレンチブルドッグに出会えた強運なあなたへ」
- 編集内容:フレンチブルドッグに犬種を絞りながら、インタビューを中心に時代に流れる「人と犬の関係性」を描写
- 読者層:30代の夫婦がメイン
- 発行部数:5万部

<http://www.oakla.com/htm/buhi.html>



ONE LOVEプロジェクトは

犬の殺処分をなくし、 人と犬との明るい未来をつくる プロジェクトです



人と犬がもっと豊かに暮らせる社会をめざしている
ONE BRANDでは、1頭でも多くの犬の命を救うために、
2008年より動物保護団体への寄付、情報発信による啓発、
保護犬の譲渡支援を行なう「ONE LOVEプロジェクト」を
実施しています。ONE LOVEプロジェクトは、
「できることから始めよう!」をモットーに、
犬を愛するみなさんに参加いただくことで、
幸せな犬たちを増やしています。



87,119

頭

保健所に收容される 犬の数

(平成 22年環境省発表)

【收容される理由】

- 捨てられた犬や迷子犬を保護
- 無責任な飼い主の飼育放棄による持ち込み
- 動物取扱業者による持ち込み

61

%

殺処分される 犬のパーセントと数

- 元の飼い主のもとに戻れなかった犬
- 動物保護団体にレスキューされなかった犬
- 新しい飼い主に譲渡されなかった犬

53,268

頭



殺処分される犬を減らすためには、
保健所に收容された犬を引き取り新しい飼い主を探している、
動物保護団体を支援していくこと。
そして、「犬を飼おう」と考えた時に
「保護犬」を選択する人を増やすために、認知を広める必要があります。

今すぐ、できることから始めませんか？

今すぐ参加できる寄付・啓発・支援



- ONE LOVEサポーター会費
- ONE LOVEグッズの売上
- 協賛企業・賛同者からの寄付金から毎月、動物保護団体に寄付しています。



ONE LOVEプロジェクト事務局



動物保護団体
12団体
(2012年12月現在)



ONE LOVE
プロジェクト
啓発活動費

ONE LOVE プロジェクトでは、一定の審査を行なった信頼のおける動物保護団体に、長期にわたり定期的に行える寄付支援をしています。

誰でもできる 月1,000円からのサポート

～ ONE LOVEサポーター～

保護犬をレスキューする動物保護団体への寄付や、犬たちが置かれた現状をより多くの方々へ啓発していく活動を支援して下さる「ONE LOVEサポーター」を募集しています。あなたもできることから始めませんか？

●サポーターには・・・

- ①『ONE BRAND』マガジンを奇数月にお届け
- ②サポーター会報誌を偶数月にお届け
- ③ONE LOVE会員カードの発行
- ④ONE LOVEメールマガジン配信



ONE LOVEサポーターへのお申し込み、お問合せ

<http://www.onelove.cc>

☎03-5575-2363

※サポーター会費は1,000円から金額を選べます。
※現会員も金額の変更ができます。



携帯はこちら

お買い物でも サポートできます！

ONE BRAND Shopping (WEB) 内の全ての商品は、売上の一部が動物保護団体への寄付になります。

1頭でも多くの犬たちを救うために、楽しいショッピングは、ぜひONE BRAND Shoppingで！



迷子札

<http://www.obshopping.jp/>

☎03-5575-2363 10:00～17:00(土日、祝日を除く)



携帯はこちら

ONE LOVEプロジェクト 寄付先団体 (50音順)

※2012年12月末
現在

- NPO法人 ARK (アニマルレフュージ関西)
<http://www.arkbark.net/>
- 石川ドッグレスキュー
<http://dogrescuejp.net/>
- NPO法人 しっぽのなかま
<http://shippononakama.kuronowish.com/>
- ちばわん
<http://animal-note.cool.ne.jp/>
- 動物いのちの会いわて
<http://www.inochinokai.com/>
- Dog Shelter (ドッグシェルター)
<http://dogshelter.jp/>
- NPO法人 日本動物生命尊重の会
<http://www.npo-alis.org/>
- Happy Labs (ハッピーラブズ)
<http://www.happylabs.jp/>
- PAK (Paws Adoption かながわ)
保健所の犬・猫を救う会
<http://homepage3.nifty.com/nazozen/>
- NPO法人 ペット里親会
<http://petsatooyakai.web.fc2.com/>
- NPO法人 保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会
<http://npo.seiken-joto.org/>
- NPO法人 Wonderful Dogs
<http://www.wonderful-dogs.com/>

4,653,518円

(2012年1月～11月)

これまでの寄付金総額

27,049,937円

(2008年4月22日～2012年11月末現在の累計)

寄付金の詳細については、ONE LOVEサイト内「寄付金の報告 donations report」をご覧ください。

<http://www.onelove.cc/>

ONE BRAND vol. **25**